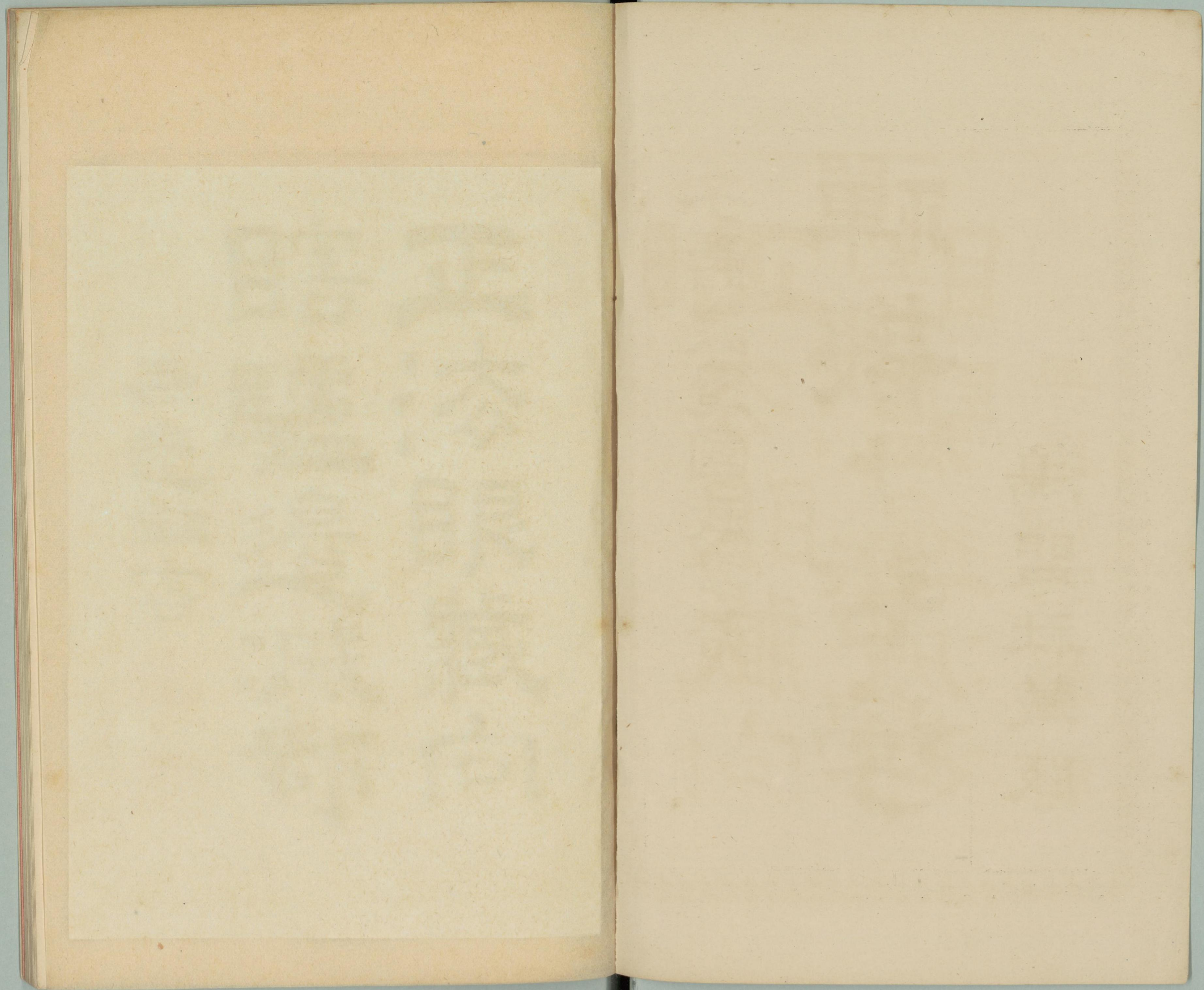


子爵渡邊國武君著

禪機卜哲學

鴻盟社藏版





国立国会図書館 渡辺国武関係文書(その2) 2134



正明

正恣眼藏向  
瞎驢邊滅却

無邊劍客

無邊

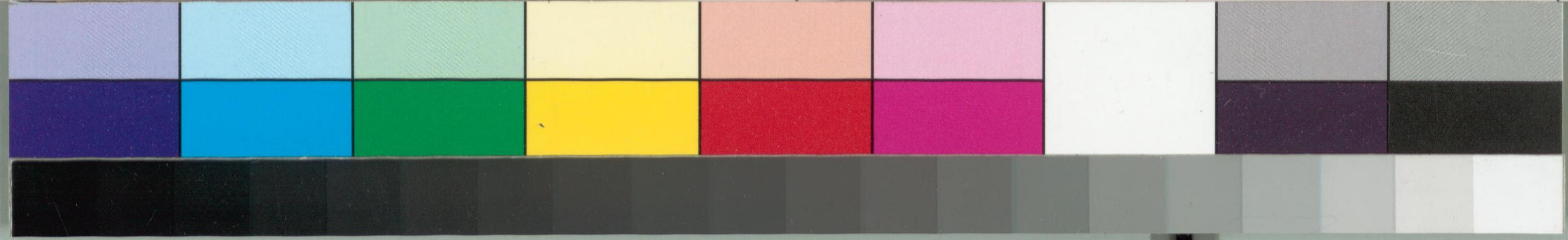
劍客



緒言

書肆鴻盟社余カ頃日某會ノ爲メニ講演シタル  
所ノ禪機ト哲學ト云ヘル一問題ニ關スル原稿  
ヲ活刷シテ之ヲ世ニ公ニセムト乞フ余笑テ曰  
ク西方ニ獸アリ其名ヲ獅子ト謂フ蓋猛獸ナリ  
盡日跳擲シテ已マス人之ニ與フルニ毬ヲ以テ  
スレハ則日夕之ヲ弄シテ而シテ終ニ其跳擲ヲ  
忘ル余カ禪機ト哲學トニ於ルカ如キ蓋亦一獅  
子毬タルニ過キサルノミ其言ノ是非其說ノ當

五  
朝  
野  
風  
尚









統的ニ之ヲ解釋スルト直覺的ニ之ニ悟入スルト其門  
戸ノ相異コソアレ其堂奥ニ入ラハ禪機ト哲學トノ間  
ニ於テ豈靈犀一點ノ通ズル無ラムヤ  
故ニ余カ今茲ニ論セムト欲スル所ハ從來其中間ニ一  
大巨溝ヲ鑿チテ決シテ其交通ヲ許サ、リシ所ノ此禪  
機ト哲學トノ間ニ一ノ橋梁ヲ架設シ其交通ノ新道路  
ヲ開カムト欲スルナリ否此橋梁建築ノ爲メニ一ノ材  
料ヲ供給セント欲スルナリ  
然ラハ則其橋梁建築ノ經畫如何余ハ之カ爲メニ二種  
ノ方法アルヘキヲ認ム第一ニハ哲理ニ由リテ禪機ヲ

裁判シ第二ニハ禪機ニ由リテ哲學ヲ裁判スル即チ是  
ナリ  
此二種ノ方法ハ何レモ同一ニ興味アルヘキ問題ナリ  
ト云凡今日ハ哲學家諸氏ノ集會ナリ他山ノ石ハ以テ  
玉ヲ磨クヘシ余ハ第一ノ方法即チ哲理ニ由リテ禪機  
ヲ裁判スルカ如キハ他日ノ宿題トシテ之ヲ止メ今ハ  
第二ノ方法即チ禪機ニ由リテ哲學ヲ裁判スルヲ試  
ミムト欲スルナリ  
禪機ニ由リテ哲學ヲ裁判セント欲セハ先ツ第一ニ其  
裁判ノ準據ト爲スヘキ法律ヲ定メサル可ラス而シテ





其法律ハ必ス哲學的ニ之ヲ講述スルヲ得ヘキモノナ  
ラサル可ラス夫ノ聖教量トカ云ヘル如ク佛教信者ノ  
間ニノミ通用スヘキ自畫自賛的ノモノナル可ラス  
故ニ余ハ  
第一ニ裁判ノ準據ト爲スヘキ法律ヲ定メ  
第二ニ一回之ヲ哲學的ニ講述シ  
第三ニ此法律ノ命スル所ニ從ヒ哲學ニ向ツテ裁  
判宣告ヲ爲ス  
ノ順序ヲ採ラサル可ラス  
第一ニ裁判ノ準據ト爲スヘキ法律ヲ定メムトスルニ

當リ非常ノ困難ヲ感セリ何トナレハ禪家ハ所謂教外  
別傳不立文字ニシテ別ニ經文ノ據ルヘキ者ナク別ニ  
方式ノ繹ブヘキ者ナシ唯所謂公案一千七百則アルノ  
ミ公案トハ公廨ノ文案ト云ヘル意味ヨリ由來スル者  
ニシテ今ノ所謂試験問題ナリ禪家ニハ唯此試験問題  
一千七百アルノミナレハ今裁判ノ準據ト爲スヘキ法  
律ヲ定メムトスレハ此公案一千七百則中ノ一則ヲ以  
テ之ニ充ツルノ外ナシ故ニ余ハ其中ヨリ最モ手近ニ  
シテ最モ簡單ナル一則ヲ擧ケテ此臨時裁判ノ法律ト  
爲スヘキナリ



臨濟録ヲ讀マレタル人々ハ之ヲ熟知セラル、ナラム  
其晩參ノ一夕話ニ  
有<sup>ル</sup>時<sup>ハ</sup>奪<sup>テ</sup>人<sup>ハ</sup>不<sup>テ</sup>奪<sup>テ</sup>境<sup>ハ</sup>  
有<sup>ル</sup>時<sup>ハ</sup>奪<sup>テ</sup>境<sup>ハ</sup>不<sup>テ</sup>奪<sup>テ</sup>人<sup>ハ</sup>  
有<sup>ル</sup>時<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>境<sup>ハ</sup>俱<sup>ニ</sup>不<sup>テ</sup>奪<sup>テ</sup>  
有<sup>ル</sup>時<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>境<sup>ハ</sup>俱<sup>ニ</sup>奪<sup>テ</sup>  
ト云ヘルコアリ是此臨時裁判ノ爲メニ應用スヘキ適  
當ノ法律ナリト認ムルヲ以テ余ハ之ヲ提唱シテ以テ  
此裁判ノ準據ト爲サムトス  
奪人不奪境ト奪境不奪人ト人境俱奪ト人境俱不奪ト

ノ四句アルカ故ニ禪家ニテハ之ヲ臨濟ノ四機四境又  
ハ四料揀ヲド、云ヘリ料揀ハ料リ揀ブノ意ニシテ學  
人ノ地位識見ヲ料度揀別シテ之ニ應スルノ義ナリ元  
僧寧一山之ヲ評シテ曰ク此四種電飛星轉之機變才作  
計較万里崖州ト云ヘリ此言寔ニ然リ余カ今哲學的ニ  
之ヲ講述セムトスルカ如キハ眞ニ所謂作計較モノタ  
ルニ過キサルカ故ニ向上ノ一機ニ對シテハ万里崖州  
即チ東京ト倫敦ホドノ懸隔アルヘキハ固ヨリ論ナシ  
ト云ヒ是モ亦所謂憐兒忘醜的ノ善巧方便タルヲ失ハ  
サルヘシト信ス



是ニ於テ乎第一ニ裁判ノ準據ト爲スヘキ法律ハ定リ  
タリ今ハ第二ニ一回哲學的ニ之ヲ講述シテ以テ其大  
意ヲ明カニスヘシ  
四句ノ中人、境ノ二字々眼ナリ人境トハ禪家ニ於ケル  
一種ノ術語ニシテ佛教的ニ之ヲ解釋スレハ人ハ一心、  
境ハ万法ナリ又哲學的ニ之ヲ翻譯スレハ人ハ「マイン  
ド」(心境)ハ「マツター」(物)人ハ「エゴ」(自我)境ハ「ノンエゴ」  
(非我)人ハ「ガイスト」(精神)境ハ「ナツール」(宇宙)人ハ「ズブレ  
クト」(主觀)境ハ「オブジェクト」(客觀)人ハ「イデアール」(觀念)境  
ハ「レアーレ」(實有)ナド、云ヘルニ近カルベシ此等ノ諸

語ハ其指ス所皆同カラズト云ヒ言語釋義ノ未タ痛ク  
分拆セラレサリシ隋唐ノ昔時ニ在リテハ此等ノ諸語  
義ヲ一括シ之ニ向ヒテ人、境ノ二字ヲ下シタリト見テ  
蓋大差異ナカルヘシ  
余ハ此法律ノ總説明トシテ禪家ニテハ此人ト境即チ  
心ト物、自我ト非我、精神ト宇宙、主觀ト客觀、觀念ト實有  
等二者ノ關係ニ就テ如何ニ解釋スル乎ナ一言セサル  
可ラス  
是ハ特リ禪家ノミナラス北方佛教即チ大乘佛教一般  
ノ通義トシテ緣起、依他起、因緣生、互爲因果ナドト云ヒ



テ此レト彼レト互ニ相待ツテ存立シ互ニ原因ト爲リ  
互ニ結果ト爲リ互ニ肯定シ互ニ否定スル者ナリト爲  
セリ即チ「レシブロシチー」互相存立「ウエックゼルヴィル  
クング」互相發動ナド、云ヘル意味ニ解釋ス  
此ノ如ク解釋スル所以ノ理由ハ他ナシ考フルトハア  
ルト考フルトニシテアルトハ考ヘラレテアルモノタ  
ルニ過キザルガ故ニ認識スル所ノ心アレハ認識セラ  
ル、所ノ物アリト云ヒ認識スル所ノ心ナケレハ認識  
セラ、所ノ物ナク又認識セシムル所ノ物アレハ認  
識セシメラル、所ノ心アリト云ヒ認識セシムル所ノ

物ナケレハ認識セシメラル、所ノ心ナシト云ヘル議  
論ニシテ譬ヘハ長短大小ト云フカ如シ  
長ハ其レ自身ニ長ナルト能ハス他ノ之ナシテ長ナラ  
シムル所ノヨリ短キモノニ對シテ始メテ長ナルヲ得  
之ト同時ニ短モ亦其レ自身ニ短ナルト能ハス他ノ之  
ナシテ短ナラシムル所ノヨリ長キモノニ對シテ始メ  
テ短ナルヲ得大小モ亦此ノ如ク大アレハ小アリ小ア  
レハ大アリト云ヒ大ナケレハ小ナク小ナケレハ大ナ  
シ  
心ト物トノ關係モ亦之ト異ナラス所認識ノ物ヲシテ



物タラシムルハ能認識ノ心ニシテ能認識ノ心ナシテ  
心タラシムルハ所認識ノ物ナルカ故ニ心アレハ物ア  
リ物アレハ心アリト云心ナケレハ物ナク物ナケレ  
ハ心ナシ  
而シテ心アレハ物アリト云ヘル一方ヨリシテ之ヲ見  
レハ心ハ原因ト爲リ物ハ結果トナル又物アレハ心ア  
リト云ヘル一方ヨリシテ之ヲ見レハ物ハ原因ト爲リ  
心ハ結果トナル  
蓋北方佛教ニ於ル原因結果ノ意味ハ夫ノシヨペンハ  
ウエル等ノ言ヘル如キ普通ノ意味トハ少シク異ナリ

或ハ本躰現象ト云ヘルニ近ク時間ト空間トニ拘ハラ  
ズ互相關係上此モノアレハ他ノモノナケ  
レハ他ノモノナキチ原因ト云ヒ他ノモノアレハ此  
ノアリ他ノモノナケレハ此モノナキチ結果ト云フ故  
ニ原因トナレハ有力相持ニシテ他ノモノチ奪ヒ他チ  
廢シテ己チ成シ己チ肯定シテ他チ否定シ又結果トナ  
レハ無力相依ニシテ他ノモノニ奪ハレ己チ廢シテ他  
チ成シ他チ肯定シテ己チ否定ス心アレハ物アリト云  
ヘハ物ハ心ノ爲メニ奪ハレテ物ハ心ノ中ニ隠レ物ア  
レハ心アリト云ヘハ心ハ物ノ爲メニ奪ハレテ心ハ物



ノ中ニ隠ル  
是前ニ云ヘル互ニ原因ト爲リ互ニ結果ト爲リ互ニ肯定  
定シ互ニ否定スル所以ノ理由ニシテ即チ甲アレハ乙  
アリ乙アレハ甲アリ甲ナケレハ乙ナク乙ナケレハ甲  
ナシト云ヘル辨證方式ナリトス  
而シテ余カ推理スル所ニ由レハ此ノ如ク互ニ原因ト  
爲リ互ニ結果ト爲リ互ニ肯定シ互ニ否定スルハ特リ  
心ト物トノ關係ノミナラス哲學上ニ所謂ツアイト「時  
間」トハ過去ト未來トノ對待的關係ノミ「ラウム」空間ト  
ハ此モ「ト」彼モ「ト」ノ對待的關係ノミ「クン」チテイト

(分量)トハ總別若シクハ一多ノ對待的關係ノミ「ク」リテ  
「ト」性質トハ同異若シクハ肯否ノ對待的關係ノミ「カ  
ウ」ザリテ「ト」因果律トハ原因結果ノ對待的關係ノミ  
此等皆同一ノ辨證方式ヲ以テ之ヲ論斷ス可カラサル  
者ナク若シ又之ヲ諸般ノ科學ニ應用セハ數學ノ分量  
(總別)若シクハ一多ノ關係ニ於ケル論理學ノ性質同異  
若シクハ肯否ノ關係ニ於ケル道德學ノ人我若シクハ  
惡善ノ關係ニ於ケル政治學ノ官民若シクハ内外ノ關  
係ニ於ケル法律學ノ權利義務ノ關係ニ於ケル經濟學  
ノ生産消費ノ關係ニ於ケル神學ノ能造所造若シクハ



能攝所攝ノ關係ニ於ケル乃至物理學ノ引心離心ノ二  
力關係ニ於ケル化學ノ抱合分離ノ關係ニ於ケルカ如  
キモ亦皆此辨證方式ニ由リテ其根本的關係ヲ論斷ス  
ルニ非ルヨリハ其研究ノ基礎決シテ確定ス可カラス  
然リト云凡今ノ問題ハ其關聯スル所單ニ純粹哲學ニ  
在ルカ故ニ他ハ措テ之ヲ論辯セザルノミ  
歐洲哲學中ニ於テハ事物ノ關係ニ就キ其識力ノ透徹  
セル此ノ如キハ未タ嘗テ見サル所ナリ夫ノ「ヘラクリッ  
ト」ガ變化哲學ノ如キ或ハ彷彿トシテ之ヲ認ムル者ノ  
如シト云凡其變化ヲ以テ絶待無二ノ眞理ト爲スニ至

リテハ變化ノ觀念モ亦他ノ不變化ノ觀念ニ對待シテ  
始メテ存立スルヲ得ル者タルヲ解セサルナリ又支那  
ノ周易大傳ニ一陰一陽之謂道ヲ以テ肯定差別的ノ機  
ヲ表シ陰陽不測之謂神ヲ以テ否定平等的ノ機ヲ示シ  
剛柔相摩ヲ以テ俱存双泯ノ機ヲ表シ剛柔相推ヲ以テ  
單存偏亡ノ機ヲ示スカ如キモ亦彷彿トシテ見ル所ア  
ルカ如シト云凡其變動不居周流六虛的ノ變易ヲ以テ  
宇宙ノ眞相ト爲スニ至ツテハ其誤謬全ク「ヘラクリット」  
ト異ナラス

「カント」カ十二範疇中第三關係門ニ於ル三範疇ノ第三



ニ居ル協同的關係ノ說較之ニ近シト云凡カシカ其  
第一範疇タル本體屬性ノ關係第二範疇タル原因結果  
ノ關係ヲ以テ從屬的關係ナリト爲シ本體ハ屬性ヲ定  
メ原因ハ結果ヲ定ムルヲ得ルト云凡ハ屬性ハ本體ヲ定  
メ結果ハ原因ヲ定ムルヲ得ズト云ヘル如キハ誤謬ノ甚  
シキ者ナリト云ハサル可ラス屬性ナキノ本體ナク結  
果ナキノ原因ナキカ故ニ本體ノ本體タルハ屬性ノ屬  
性タルニ因テ定マリ原因ノ原因タルハ結果ノ結果タ  
ルニ因テ定マル同シク是協同的互相關係タルヲ解セ  
サルニ至ツテハ驚クノ外ナシ特ニ能造(神)所造(宇宙)ノ

關係ヲ引證シテ能造ハ所造ヲ定ムト云凡ハ所造ハ能造  
ヲ定ムル能ハスト云フニ至ツテ牽強附會モ亦其極端  
ニ達セリト云フベシ何トナレバ是論理上ニ於テ所造  
ナキノ能造アリト云フト全ク異ナル所ナケレハナリ  
餘波ノ議論ハサシ置キ上ニ云ヘル「甲アレハ乙アリ乙  
アレハ甲アリ甲ナケレハ乙ナク乙ナケレハ甲ナシト  
云ヘル根本的辨證方式ヨリシテ四個ノ場合四個ノ宇  
宙觀即チ四個ノ「モーメント」(發動原力)ヲ表現ス是則臨  
濟カ四機四境又ハ四料揀ナド云ヘル者ニシテ言ハ、  
一個ノ真理ヲ前後左右ノ四邊ヨリ觀望シタルカ如キ



者タルニ過キサルナリ  
余ハ大躰説明ヲ茲ニ止メ次ニ法律逐條ニ就テ其大要  
ヲ説明スヘキナリ  
第一ニ奪人<sup>テ</sup>不奪境<sup>ハ</sup>此奪人不奪境ノ一機ハ甲アレハ乙  
アリ甲ナケレハ乙ナシト云ヘル方式ナリ所認識ノ物  
アレハ能認識ノ心アリト云ル所認識ノ物ナケレハ能  
認識ノ心ナシト云ヘル一方ヨリシテ觀察シタル者ニ  
シテ物ハ原因ト爲リ心ハ結果トナル原因ハ結果ヲ奪  
フカ故ニ心隠レテ物ノミ現ハル哲學家ニ所謂唯物論  
實有論客觀論ナド、云ヘル者即チ是ナリ

第二ニ奪境<sup>テ</sup>不奪人<sup>ヲ</sup>此奪境不奪人ノ一機ハ第一ノ正反  
對ニシテ乙アレハ甲アリ乙ナケレハ甲ナシト云ヘル  
方式ナリ能認識ノ心アレハ所認識ノ物アリト云ル能  
認識ノ心ナケレハ所認識ノ物ナシト云ヘル一方ヨリ  
觀察シタルモノニシテ心ハ原因トナリ物ハ結果トナ  
ル原因ハ結果ヲ奪フカ故ニ物隠レテ心ノミ現ハル哲  
學家ニ所謂唯心論、觀念論、主觀論ナド、云ヘル者即チ  
是ナリ  
第三ニ人境俱奪<sup>ニ</sup>此人境俱奪ノ一機ハ甲ナケレハ乙ナ  
ク乙ナケレハ甲ナシト云ヘル方式ナリ能認識ノ心ナ





ケレハ所認識ノ物ナク所認識ノ物ナケレハ能認識ノ  
心ナシト云ヘル一方ヨリ觀察シタル者ニシテ心ハ物  
ニ依テ心タリ物ハ心ニ依ツテ物タリ二者俱ニ其レ自  
身ナク二者俱ニ他ノ存立ヲ妨ケ物ハ心ヲ否定シ心ハ  
物ヲ否定シ互奪雙泯二者俱ニ結果トナリ二者俱ニ隱  
レテ現ハレス佛家ニ之ヲ諸法無自性ト云フ哲學家ニ  
所謂唯理論一元論絶待論ナド云ヘル者即チ是ナリ  
第四ニ人境俱不奪此人境俱不奪ノ一機ハ第三ノ正反  
對ニシテ甲アレハ乙アリ乙アレハ甲アリト云ヘル方  
式ナリ能認識ノ心モ所認識ノ物モ皆依他起無自性ナ

リト云レ能認識ノ心ハ所認識ノ物ヲシテ物タラシム  
ルノ功能アリ所認識ノ物ハ能認識ノ心ヲシテ心タラ  
シムルノ功能アリト云ヘル一方ヨリ觀察シタル者ニ  
シテ心ハ物ヲシテ物タラシメ物ハ心ヲシテ心タラシ  
メ二者互ニ他ノ存立ヲ資ケ心ハ物ヲ肯定シ物ハ心ヲ  
肯定シ互立雙存二者俱ニ原因トナリ二者俱ニ現ハレ  
テ隱レス哲學家ニ所謂二元論相對論ナドト云ヘル者  
即チ是ナリ  
以上哲學的講述ニ從ヘハ第一ノ奪人不奪境ハ唯物論  
第二ノ奪境不奪人ハ唯心論第三ノ人境俱奪ハ一元論



第四ノ人境俱不奪ハ二元論ナリ然ルニ臨濟ハ何故ニ  
 其是非當否ヲ論斷スルヲナク有時ハ唯物論有時ハ唯  
 心論有時ハ一元論有時ハ二元論ト云フカ如キ語氣ヲ  
 用ヒタリヤト云フニ是實ニ禪機ノ活潑自在ナル妙處  
 ニシテ諸家ノ遠ク及ハサル所ナリ前ニモ言ヘル如ク  
 此四機四境四料揀ハ一個ノ真理ヲ前後左右ノ四邊ヨ  
 リ觀望シタル如キモノタルニ過キサルカ故ニ若シ遮  
 情門即チ否定的ニ之ヲ言ヘハ唯心論ハ唯物論ヲ破リ  
 唯物論ハ唯心論ヲ破リ二元論ハ一元論ヲ破リ一元論  
 ハ二元論ヲ破リ四機四境互ニ相害シ互ニ相破リ一モ

否定セラレサルナク又表徳門即チ肯定的ニ之ヲ言ヘ  
 ハ唯心論ノ裏面ニ唯物論ヲ藏シ唯物論ノ裏面ニ唯心  
 論ヲ藏シ二元論ノ裏面ニ一元論ヲ藏シ一元論ノ裏面  
 ニ二元論ヲ藏シ四機四境互ニ相資ケ互ニ相成シテ一  
 モ肯定セラレサルナシ  
 余ハ今其理由ヲ細説スルノ煩ヲ省ク爲メ一ノ問答  
 ヲ設ケテ之ヲ略説スヘシ遮情門即チ否定的ニ之ヲ言  
 ヘハ第一ニ宇宙ハ唯物ナリヤ曰ク否心ヲケレハ物ナ  
 キカ故ニ唯物ニ非ス第二ニ宇宙ハ唯心ナリヤ曰ク否  
 物ヲケレハ心ナキカ故ニ唯心ニ非ス第三ニ宇宙ハ一



元ナリヤ曰ク否、心ト物ト互立雙存ヲ妨ケサルカ故ニ  
 一〇元ニ非ス第四ニ宇宙ハ二元ナリヤ曰ク否、心ト物ト  
 皆依他起無自性ナルカ故ニ二元ニ非ス  
 又表徳門即チ肯定的ニ之ヲ言ヘハ第一ニ宇宙ハ唯物  
 ナリヤ曰ク然リ物ヲケレハ心ナキカ故ニ唯物ナリ第  
 二ニ宇宙ハ唯心ナリヤ曰ク然リ心ナケレハ物ナキカ  
 故ニ唯心ナリ第三ニ宇宙ハ一元ナリヤ曰ク然リ心ト  
 物ト皆依他起無自性ナルカ故ニ一元ナリ第四ニ宇宙  
 ハ二元ナリヤ曰ク然リ心ト物ト互立雙存ヲ妨ケサル  
 カ故ニ二元ナリ

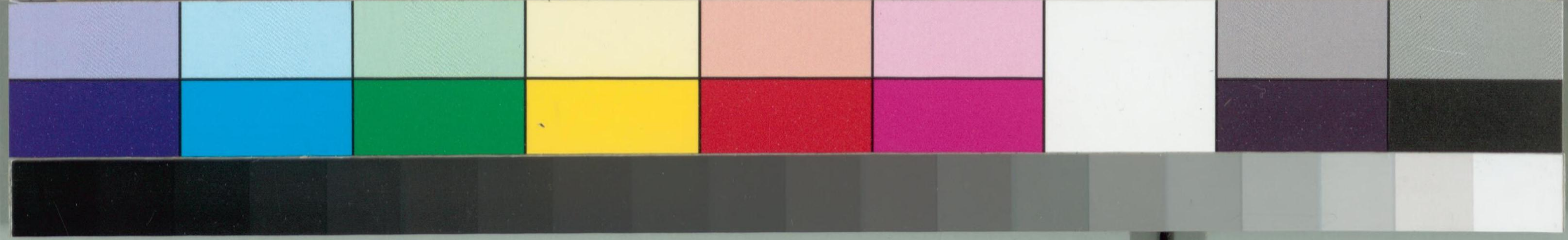
以上ノ問答ニ因レハ四機四境皆同一完全ナル論法ヲ  
 以テ同時ニ之ヲ否定シ之ヲ肯定スルヲ得之ヲ存泯無  
 碍遮表圓融的一大活機ト云フ所謂本地ノ風光本來ノ  
 面目又ハ向上ノ一機ナド、云ヘルハ畢竟皆此一大活  
 機ヲ形容スル所ノ表顯的文字タルニ過キサルノミ而  
 シテ此一大活機タルヤ之ヲ放テハ則六合ヲ表現シ之  
 ナ卷ケハ則一心ニ退藏ス其差別的方面ヨリシテ之ヲ  
 見レハ因果歷然能所互ニ應シ關係秩序整然トシテ相  
 參雜セス以テ万化ヲ裁制シ万機ニ應用シテ綽々餘裕  
 アリ又其平等的方面ヨリシテ之ヲ見レハ天空海濶鳶





飛○ヒ○魚○躍○ル○盤○錯○モ○以○テ○之○ヲ○挫○ス○ル○能○ハ○ス○紛○擾○モ○以○テ○  
之○ヲ○亂○ル○能○ハ○ス○以○テ○宇○宙○ヲ○吞○吐○シ○万○有○ヲ○殺○活○シ○テ○鼓○  
腹○便○々○タリ○豈○區○々○タル○言○語○思○想○ノ○得○テ○之○ヲ○摸○索○形○容○  
ス○ル○所○ナラ○ム○ヤ○是○臨○濟○カ○四○機○四○境○ノ○是○非○當○否○ヲ○論○斷○  
セ○サ○ル○ノ○ミ○ナラ○ス○之○ヲ○見○ル○一○輕○靄○浮○雲○ノ○如○ク○唯○學○人○  
ノ○地○位○識○見○ニ○從○ヒ○機○ニ○臨○ミ○變○ニ○應○シ○テ○其○迷○情○ヲ○擒○縱○  
與○奪○シ○其○眞○機○ヲ○喚○起○啓○發○ス○ル○カ○爲○メ○ノ○善○巧○方○便○ニ○ノ○  
ミ○之○ヲ○供○シ○タ○ル○所○以○ナリ○  
此○ノ○如○ク○言○へ○ハ○ト○テ○臨○濟○ノ○禪○機○ヲ○以○テ○哲○學○家○ニ○所○謂○  
ス○ケ○ブ○チ○ズ○ム○ス○懷○疑○派○ナ○ル○者○ト○同○一○ナリ○ト○速○了○ス○可○

ラ○ス○何○ト○ナレ○ハ○懷○疑○派○ハ○渾○テ○ノ○知○識○ト○存○在○ト○ナ○否○定○  
ス○ル○モ○ノ○ナリ○ト○云○此○四○機○四○境○ハ○辨○證○自○然○ノ○結○果○ト○  
シ○テ○肯○定○的○ニ○之○ヲ○言○へ○ハ○互○ニ○相○資○ケ○互○ニ○相○成○シ○皆○同○  
一○完○全○ナル○論○法○ニ○據○リ○テ○之○ヲ○肯○定○セ○サ○ル○可○ラ○サ○ル○嚴○  
正○精○確○ナル○理○法○ヲ○有○ス○レ○ハ○ナリ○  
サ○レ○バ○ト○テ○又○臨○濟○ノ○禪○機○ヲ○以○テ○哲○學○家○ニ○所○謂○ド○グ○マ○  
テ○ズ○ム○ス○獨○斷○論○ナ○ル○者○ト○同○一○ナリ○ト○速○了○ス○可○カ○ラ○ス○  
何○ト○ナレ○ハ○獨○斷○論○ハ○一○說○ヲ○固○執○主○持○ス○ル○者○ナリ○ト○云○  
此○四○機○四○境○ハ○辨○證○自○然○ノ○結○果○ト○シ○テ○否○定○的○ニ○之○ヲ○  
言○へ○ハ○互○ニ○相○害○シ○互○ニ○相○破○リ○皆○同○一○完○全○ナル○論○法○ヲ○





以テ之ヲ否定セサル可ラサル圓妙獨脫ノ活機ヲ有ス  
レハナリ  
以上不完全ナカラモ裁判ノ準據ト爲スヘキ法律ノ説  
明ヲ畢リタリ今ハ直チニ第三段ニ移リ此法律ノ命ス  
ル所ニ從ヒ歐洲古今哲學諸大家ノ哲理ニ向ツテ裁判  
宣告ヲ爲スヘシ  
歐洲古代哲學ノ中ニ於テソヒスト「詭論派」以前ノ希臘  
哲學ハ皆客觀的宇宙觀ナルカ故ニ禪家ノ眼ヲ以テ之  
ヲ見レハ奪人不奪境ノ一機ヲ得ソヒスト「主觀的宇  
宙觀」ノ極端ニ居ル者ナルカ故ニ奪境不奪人ノ一機ヲ

得「プラトン」ハ後者ニ近ク「アリストーテレス」ハ前者ニ  
近ク皆其一機一境ヲ墨守シ終身之ニ拘泥シタルニ過  
キサルノミ  
近世哲學ノ鼻祖ハ蓋英ノ「ベークン」ト佛ノ「デカルト」ナ  
ラム「ベークン」ノ經驗論ハ非我ヲ以テ其起發點ト爲シ  
タルカ故ニ無論臨濟ノ奪人不奪境ノ一機ヲ得タルニ  
過キスト云「ベークン」ハ唯哲學研究ノ爲メニ其手段  
ヲ喚起シタルマデニテ未タ完全ナル哲學系統ヲ組織  
スルニ至ラザリシカ故ニ今ハ暫ク「デカルト」ヲ以テ近  
世哲學正統ノ鼻祖ナリト假定シ以下順次ニ其裁判ニ



取リ掛ルベシ  
 「デカルト」ノ哲學ハ懷疑ニ起リテ獨斷ニ成ル其說寔ニ  
 精微ナリト云レ結局夫ノ「パンセー」ト「エキスタンシヨ  
 ン」即チ思想ト廣袤トヲ以テ宇宙ノ本躰ト爲シタルニ  
 元論ニ過キス又之ニ繼テ起ル所ノ夫ノ「スピノザ」ノ哲  
 學ハ本躰ノ絶待無二ナルヲ主張シ夫ノ思想ト廣袤ト  
 ノ如キハ畢竟其屬性タルニ過キスト爲シタル一元唯  
 理論ナリ故ニ禪家ノ眼ヲ以テ之ヲ見レバ「デカルト」ハ  
 臨濟カ人境俱不奪ノ一機ヲ得スピノザハ其人境俱奪  
 ノ一機ヲ得之ヲ以テ唯一無二ノ眞理ナリト誤解シ終

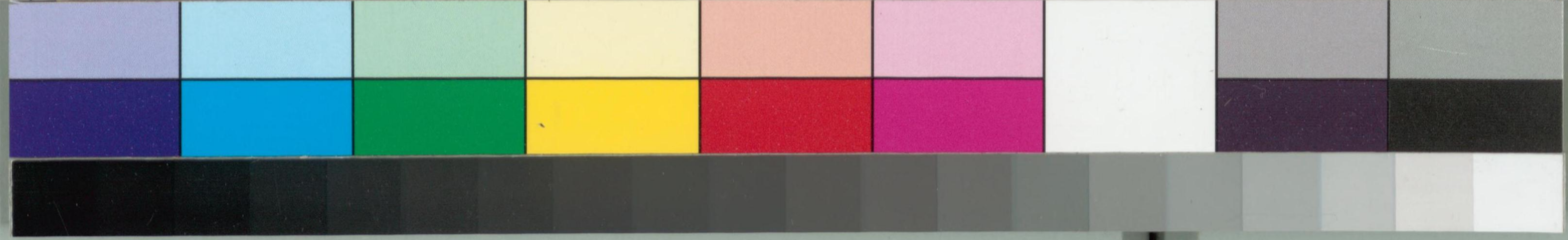
身之ヲ墨守シ之ニ拘泥シタルニ過キサルナリ  
 爾後歐洲ノ哲學界ハ二派ニ別レ「ハロツク」「ヒウム」等  
 ノ非我ヨリシテ自我ヲ觀察シタル者他ハ「バイケレー」  
 「ライブニツ」等カ自我ヨリシテ非我ヲ觀察シタル者ニ  
 シテ禪家ノ眼ヲ以テ之ヲ見レハ前者ハ臨濟ノ奪人不  
 奪境ノ一機ヲ得後者ハ其奪境不奪人ノ一機ヲ得之ヲ  
 以テ唯一無二ノ眞理ナリト誤解シ畢生之ニ拘泥シ之  
 チ墨守シタルニ過キサルノ  
 此ノ如クニシテ歐洲近世哲學ノ第一期ハ終レリ即チ  
 「デカルト」ハ人境俱不奪ノ一機「スピノザ」ハ人境俱奪ノ





一機「ロック」ヒウム等ハ奪人不奪境ノ一機「バーケレー」  
ライブニツ等ハ奪境不奪人ノ一機ヲ得各自別々ニ之  
ニ拘泥シ之ヲ墨守シタルニ過キスシテ畢生終ニ眞理  
ノ全軀ヲ理會スルヲ能ハザリシナリ  
之ニ繼テ起ル所ノモノハ歐洲哲學界ニ泰斗視セラレ  
、夫ノ獨逸イマヌール、カント「ナリ」カント「ノ」哲學ハ懷  
疑獨斷ノ外ニ批判ノ一生面ヲ開キ其說寔ニ豊富ナリ  
ト云凡結局一面ニハ先天的理性アルヲ認ムルト同時  
ニ他ノ一面ニハ物夫レ自身即チ「ディングアン、ジッヒア  
ルヲ認メタル二元論タルニ過キサルカ故ニ禪家ノ眼

ヲ以テ之ヲ見レハ臨濟カ人境俱不奪ノ一機ニ拘泥シ  
之ヲ墨守シタル過失ハ全ク「デカルト」ト異ナル所ナシ  
其門弟子タル「フヒテ」ノ哲學ハ言フマテモナク自我ヨ  
リシテ非我ヲ表現シ非我ヲ以テ自我ニ綜合シタル所  
謂ズ「ブエクチーフ、イデアリズム」主觀的觀念論ナル  
カ故ニ禪家ノ眼ヲ以テ之ヲ見レハ無論臨濟ノ奪境不  
奪人ノ一機ヲ得終身之ニ拘泥シ之ヲ墨守シタルニ過  
キサルノミ  
繼テ起ル所「セルリング」ノ哲學ハ其說前後矛盾ノ點  
甚タ多シト云凡今暫ク其大同哲學ナル者ニ就テ之ヲ





言ハ、セルリングハ自我非我ノ未タ剖判セサル大同  
即チ「イデシチテト」ヲ以テ宇宙ノ樞軸ト爲シタリト  
云ル之ヲ以テ客觀的一物ノ如ク見做シタルノミナラ  
ス其作用ヲ論スルモ多クハ客觀的宇宙ノ理法ニ於テ  
シタリ是「オブエタテト」フ、イデアリズム「客觀的觀念  
論」ノ名アル所以ニシテ是ヲ亦禪家ノ眼ヲ以テ之ヲ見  
レハ臨濟ノ奪人不奪境ノ一機ヲ得タルニ過キサル者  
トス  
「セルリング」ヲ壓倒シテ起リ思想的盜賊ノ名アル夫ノ  
「ヘーゲル」ノ哲學ハ「フヒテ」セルリングノ三斷論法ヲ完

成シ哲學上實ニ一大系統ヲ爲シタリト云ル結局綜合  
ノ一方ニ偏シ毎ニ二邊ヲ遮シテ中道ヲ表ハス天台家  
ノ所謂差別三觀次第三觀ノ分際ヲ出ツル能ハス夫ノ  
「ザイン」有ト「ニヒトザイン」無トヲ綜合シタル「ウェルデン」  
（成化）ニ始リ「オブエクテト」フ、ガイスト「客觀的精神」ト「ズ  
ブエクテト」フ、ガイスト「主觀的精神」トヲ綜合シタル「ア  
ブゾルト」ト、ガイスト「絶待的精神」ニ終ル所ノ一部ノ「エ  
ンチクロペデー」哲學韻府ハ禪家ノ眼ヲ以テ之ヲ見レ  
ハ臨濟ノ人境俱奪ノ一機ヲ得之ヲ以テ絶待無二ノ完  
全眞理ナリト誤解シ畢生之ヲ墨守シ之ニ拘泥シ夢ニ





モ眞理ノ全軀ヲ理會シ能ハザリシヲ見ル

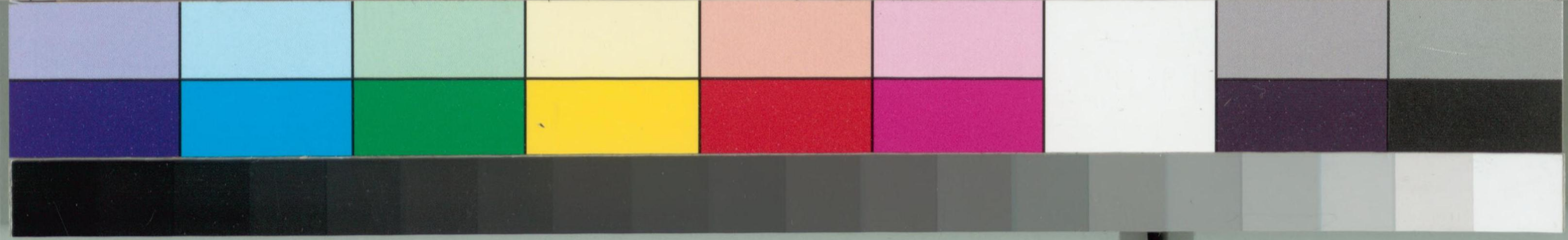
此ノ如クニシテ歐洲近世哲學ノ第二期ハ終レリ即チ  
「カント」ハ人境俱不奪ノ一機「フヒテ」ハ奪境不奪人ノ一  
機「セルリ」ハ奪人不奪境ノ一機「ヘーゲル」ハ人境俱  
奪ノ一機ヲ得各自別々ニ之ヲ墨守シ之ニ拘泥シタル  
ニ過キスシテ終身遂ニ眞理ノ全軀ヲ理會スルヲ能ハ  
サリシナリ」  
其他「ヘルバルト」「スペンセル」ノ奪人不奪境ノ一機ニ於  
ル「シヨベン」「ハウエル」ノ奪境不奪人ノ一機ニ於ル「ハ  
トマン」「ヴント」ノ人境俱奪ノ一機ニ於ル比々トシテ皆

然ラサルナシ  
此ノ如ク裁判シ來レハ宇内知識ノ最上層ト稱セラ  
、所ノ歐洲哲學諸大家カ數千年間論戰幾場血鐵楯ヲ  
漂ハスニ至リタル哲學主義ノ問題モ禪家ノ眼ヲ以テ  
之ヲ見レハ此臨濟カ晩參一夕話頭ノ範圍外ニ跳出ス  
ル能ハサルノミナラス各自別々ニ一機一境ヲ墨守シ  
之ニ拘泥シ終身頭顱ヲ其中ニ没シ一モ眞理ノ全軀ヲ  
理會シタル者ナシト言ツテ不可ナカルヘシ  
以上余ハ豫定ノ如ク禪機ニ由リテ哲學ヲ裁判シタリ  
即チ歐洲古今哲學諸大家殘ラズニ向ツテ有罪ノ宣告



ヲ爲シタリ。然リト云。前ニモ言ヘル如ク。此四機四境ノ如キハ遮  
情的ニ之ヲ言ヘハ一モ否定ス可ラサル者ナシト云。此  
表德的ニ之ヲ言ヘハ一モ肯定ス可ラサル者ナキカ故  
ニ一部ノ歐洲哲學史ハ之ヲ分テハ則支離滅裂實ニ眞  
理ノ碎片醇化ノ糟粕ヲ堆積シタルニ過キスト云。此  
レヲ合スレハ則圓融調和諸家ノ哲學主義互ニ相害シ  
互ニ相破ルト同時ニ互ニ相資ケ互ニ相成シ所謂存混  
無碍遮表圓融的一大活機ヲ瞥見スルニ足リ或ハ渙然  
トシテ禪家向上ノ一機ト冥合スル者ナリト斷言スル

ヲ憚ラサル所ナリ。余ハ終ニ臨ンテ更ニ一言ス初頭ニモ言ヘル如ク元來  
禪機ハ決シテ哲理ヲ以テ解釋ス可ラサル者ナリ。今決  
シテ哲理ヲ以テ解釋ス可ラサル所ノ禪機ヲ把テ哲學  
的ニ之ヲ講述シ哲學的ニ講述スル所ノ禪機ヲ以テ哲  
學ヲ裁判シ且其全軀ニ向ツテ有罪ノ宣告ヲ爲ス。是憐  
兒忘醜的ノ善巧方便タルニ非レハ則入其室操其矛取  
其矛擊其盾的ノ惡辣手段タルヲ免レス。拈シ去リ拈シ  
來レハ空中ノ鳥跡ヲ數フルカ如ク流水上ニ文字ヲ畫  
スルニ似タリ。然リト云。此解釋此議論又此裁判





禪機ト哲學終

ニシテ前ニ云ヘル如ク從前其中間ニ一大巨溝ヲ鑿テ  
決シテ其交通ヲ許サザリシ所ノ禪機ト哲學トノ間ニ  
架設スヘキ橋梁建築ノ一ノ材料トモナルユトアラハ  
余ハ之ヲ認メテ以テ望外ノ幸ナリト爲スアラム而已

明治三十一年十二月十五日印刷  
明治三十一年十二月十九日發行

著者 渡邊國武

發行者 今村金治郎

東京市芝區露月町十八番地

印刷者 山本鏝次郎

東京市京橋區西紺屋町廿六番地

印刷所 株式會社 英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六番地

發行所 鴻盟社

東京市芝區露月町十八番地



版權所有





發行所 東京市芝罘區日理十八番地 盟 振

發行所 東京市芝罘區西橋田廿六番地 會 振

發行所 東京市芝罘區西橋田廿六番地 山 本 振

發行所 東京市芝罘區日理十八番地 今 林 金 振

發行所 東京市芝罘區日理十八番地 善 堂 振

即出三十一日十二月十日發行  
即出三十一日十二月十五日印刷

永平性海慈船禪師題字 故藏海和尚著  
總持法雲普蓋禪師題字 西有穆山老師校閱

### 再正法眼藏私記會本

大本 全 八 冊  
定價金八圓五十錢  
郵 稅 金五十四錢

佛法の總府に入り佛法の神髓を得るには是非とも正法眼藏に依るべし正法眼藏を參究するの資料は多種ありと雖ども藏海和尚の私記に勝るものなし弊社曩きに正法眼藏私記會本を出版して洞上綿密の宗風を扇揚せり江湖の龍象、競ふて購讀せられしかば初版は既に當時に於て賣れ盡したれば爾來雲兄水弟の渴望に應ずること能はず荏苒今日に及びたるも高需尙は多きに依り更に五百部を限り(三百部は現に申込あり)再鑄に付し承陽大師の遺身舍利に參せん幕古の君子に頒たんと欲す參學の高流時を逸することなく陸續高需を賜はんことを●端書にて御申込を乞但し前記の員數に滿ざれば發行せず●用紙大判紙●紙表紙の事

豫約價金六圓五拾錢(全國無遞送)



洞上碩匠三光老人指月和尙

# 荒田隨筆

大本 全二册

定價 金六十錢  
郵稅 金八錢

天地玄黃の符號を以て一代一千部の著述を期したるは故指月老漢なり老漢の著述中に特に白眉とするは荒田隨筆なり。凡そ其宗にありて其宗の位置を知るは定祖の判斷にあり。曹洞宗の定祖判斷は老漢を措て誰ぞや、苟も佛教の總府たる洞上の價格を評せんと欲せば其評量を荒田隨筆に問ふべし本書曾て祝融氏の妬む所となりて世に稀なり弊社西有老人の校訂を請ひ上梓するの榮を得たり曹洞宗の眞價は一に此書によりて其高卑を知るを得ん而して内容の多寡は之を江湖の識者に問はん

出來は來三十二年二月中

## 發行所

東京市芝區  
露月町十八番地

鴻

盟

社

寂照和尙著

# 佛教大藏法數

全二册

舊本六十八卷目錄二册  
縮刷紙數壹千八百頁  
定價 金 四圓  
郵稅 三十錢

口を開けば八萬四千の煩惱と説き八萬四千の法門と唱ふる佛教家の關門は大藏法數によりて開かるべきは勿論、佛教を非とする者も是とする者もともに大藏法數に依らざれば佛教の教理を解釋すること能はず是れ此書の古來より佛教の大字書として世に珍重せらるゝ所以なり江湖の君子其佛教者たると非佛教者たるとを問はず苟も東洋の學淵に遺珠を探らんと欲せば必ずや一本を講讀して學海の指南となすべし既刊四十卷

特別注意 來る十二月三十日迄に申込の方に限り 郵稅共 金三圓  
出來 來 卅二年一月中 (期限後は正價に復す)



# 布教文庫

全十二冊

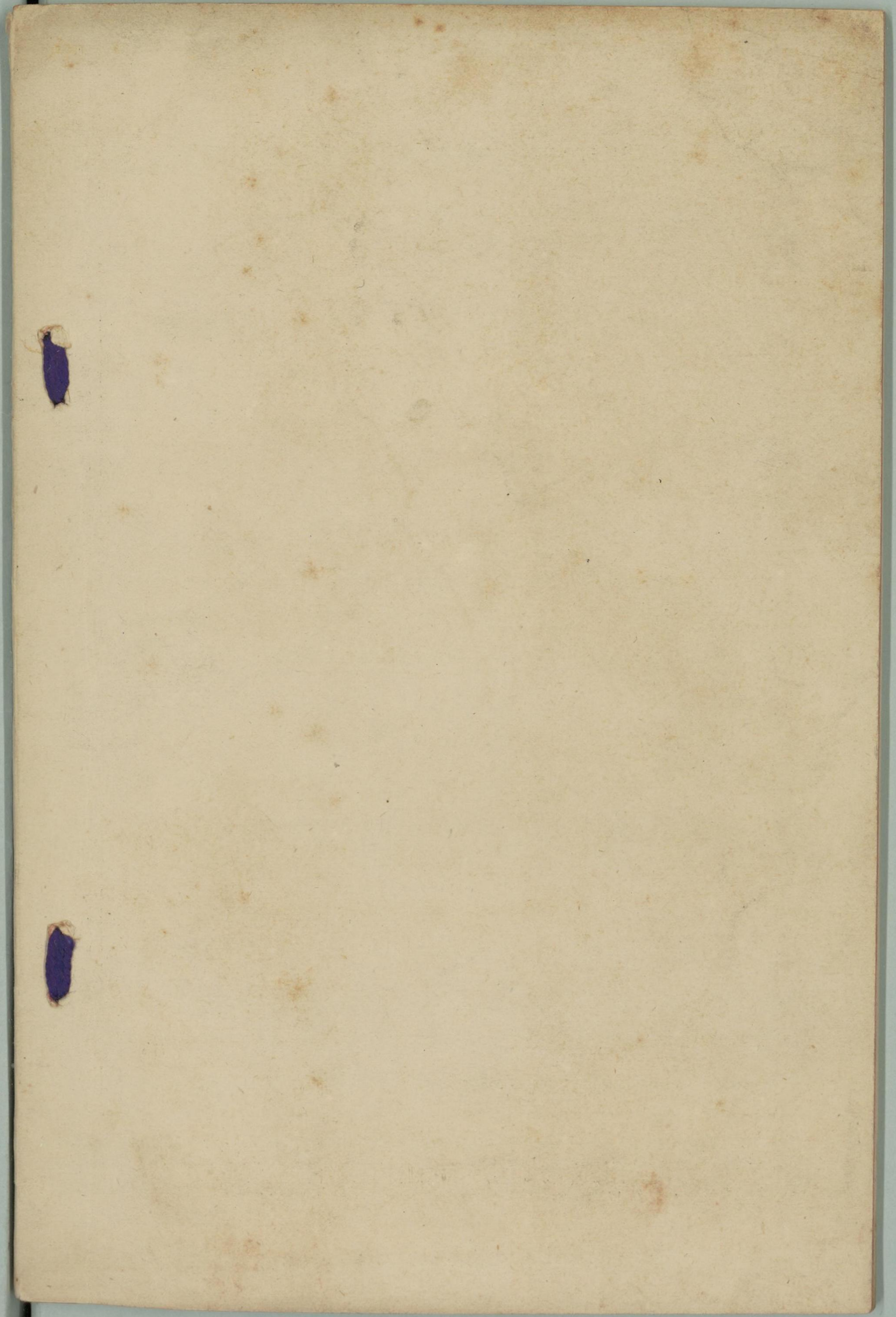
每篇一冊定價金二十錢  
郵 稅 四 錢  
六冊前金一圓三十八錢  
十二冊前金二圓五十八錢

近時佛敎界に出版せらるゝ布教資料の冊子は汗牛充棟なるも新を逐ひ奇を競ひて佛敎に忠なるもの少し是れ一に新奇を好むの弊なり弊社發兌の布教文庫は此弊を避け其半面には古人の辛苦經營せし隨筆法語を登載し他の半面には近時佛界の驍將たる各宗の碩學に請て演說說敎の筆記を登載し且つ格言金句を網羅し詞華粲然として紙上に光彩を放ち敎理卓然として文面に活動せり故に戴白の老師も閑窓の友とすべく驅鳥の沙彌も机上の良師となすべし世間幾百種の布教資料の冊子中に獨り光明を放つものは唯弊社の布教文庫あるのみ

## 既刊目錄

- 第一篇●魚籃の觀音尊像●題字井佛敎教育の法語(雲照律師) 布敎の必要(島地默雷師) 三歸の説(慈雲尊者) 受食五觀の訓誡(面山和尚) 内地雜居準備に對する宗敎家の心得(井上圓了師) 擇善勤行(南條文雄師) 心地觀經報恩品 大内青鸞師) 他數件●眞言宗綱要講義
- 第二篇●誕生佛尊影●因果爲宗(雲照律師) 内地雜居に就て(釋宗演禪師) 東洋の形勢内地雜居に就て(奥田貫正師) 佛誕生會說敎(松隆宣龍師) 禪宗綱要講義其他數件
- 第三篇●圓光大師御像●題字(華頂門主) 禪の意義禪の効用(洪嶽禪師) 因果爲宗(雲照律師) 大内井上兩師の承前淨土宗綱要講義(道重信敎師)
- 第四篇●題字(高志大了大僧正) 說敎演說家の心得(土岐善靜師) 孝論講義●勸善說敎さくら姫其他數件
- 第五篇●空華談叢(諦忍律師著)
- 第六篇(來ル十一月月中發行)





国立国会図書館 渡辺国武関係文書(その2) 2134